

【令和5年度普及活動報告一覧】

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和5年6月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■土地利用型作物・スマート農業 水田での環境にやさしいスマート農業技術等研修を開催

恵那農林事務所は、県庁スマート農業推進室などと連携し、6月6日、中津川市福岡の中山間農業研究所中津川支所及び農業者ほ場（協力：(農)はちたか）で、「水田での環境にやさしいスマート農業技術等研修」を開催した。恵那地域を中心に農業者や指導支援機関（農機メーカー・JA・市町村・県など）から56名が参加した。

研修では、(株)キセキ関西中部から4つのスマート農機（搭載された土壌センサで土中の肥沃度を検知しながら基肥量を調整制御しながら田植えを行う可変施肥田植機、水流で土を巻き上げて水田を濁らせることで雑草が光合成し難い環境を作るアイガモロボット、急傾斜の法面でも作業ができるコンパクトなリモコン式草刈機、遠隔で水位監視と給水ゲートの開閉制御ができる水管理システム）の技術概要や期待される効果、機械・機器の操作方法などが、座学と実演により紹介された。



【農業者ほ場で実演が行われた可変施肥田植機(左)、アイガモロボット(中)、リモコン式草刈機(右)】

農業普及課からは、恵那地域土地利用型スマート農業推進会議構成機関（JAひがしみの、中津川市、恵那市、中山間農業研究所中津川支所）の製作協力のもと、この3月に発行した啓発リーフレット『恵那地域版「土地利用型スマート農業技術」導入判断ポイント』を使って、小区画で傾斜地に点在する水田が多い中山間の恵那地域ならではの地域性を考慮した導入検討上の留意点の説明、県の各種支援策（無料機械・機器貸出サービス、技術学習YouTube動画サイト、導入補助事業など）を紹介した。



【農業普及課からは啓発リーフレットを紹介】

参加した農業者からは、まだ当地に導入実績のない水管理システムや可変施肥田植機などの実演に積極的な質問が出されるなど、熱心に取り組まれていた。

今後も農業普及課では、開発・販売が進む様々なスマート農業技術が、適切に導入判断された上で現地に普及するよう指導支援を行っていく。

(地域支援係)

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和5年7月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■夏秋トマト・新規就農者 産地の未来を支える担い手の経営安定を支援

東美濃夏秋トマト生産協議会では、119名がトマトの生産に取り組んでおり、1/3が就農10年目未満と急速に世代交代が進んでいる。このため、農業普及課では、早期の経営安定に向け、技術力・経営力のある生産者の育成・支援に向けた活動を行っている。



【硝酸イオン濃度測定の様子】

本年度は研修を終えた5名が営農を開始したが、自身のは場での初めての栽培のため、各種不安を抱えている。このため、は場を直接訪問することにより、各生産者に応じた指導を行っている。例えば、その時々々の生育状態を把握する方法として、生長点・葉の色等の外見上の観察に加え、葉柄汁の硝酸イオン濃度を測定することで、今後の栽培管理に役立ててもらっている。



【は場での指導の様子】

生産者の技術力・経営力の向上により、経営を持続していくことは重要であり、今後の大きな課題でもある。今後も、農業普及課は産地の未来を支えていく担い手の支援を続けていく。

(園芸産地支援第一係)

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和5年8月

安心で身近な「恵那の食」づくり

■持続型農業 「太陽熱を利用した土壌処理技術」実証ほの取組

恵那農林事務所では、令和4年度から管内の先進的農業者や関係機関と連携して、有機農業の取り組み拡大に向けた実証ほを設置し、栽培技術の現地検討を行っている。

今年度は秋作の露地野菜を対象に、太陽熱を利用した「太陽光養生処理技術」や、長期間利用可能なマルチ資材の現地実証を進めている。

8月中旬には、恵那市中野方町の有機生産者ほ場で、農林事務所職員がポリフィルムによる「太陽光養生処理」の被覆作業を支援した。

農業普及課では、地温測定による土壌処理効果の確認、フィルム除去後の土壌物理性や、作付け時の生育等について今後調査を行う。



【ポリフィルムによる被覆作業の様子】

実証ほから得られたデータや、これまで有機農業に取り組んできた農業者の経験をもとに、この地域に合った栽培技術の検討を重ね、持続性の高い農業生産への取り組み拡大を図りたいと考えている。

(地域支援係)

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和5年10月

恵那の農畜産物のブランド展開

■夏秋トマト トマトハウス内環境モニタリングを活用した灰色かび病の地域間差を解明

管内では、標高によってトマトの重要病害である灰色かび病の発生時期、程度に差があると考えられている。そこで、恵那農林事務所は、東美濃夏秋トマト生産協議会の協力を得て、5カ所の温湿度等のハウス内環境をモニタリングした。

環境と発病との関係を把握するため、現地調査とグループLINEによる聞き取りを併用した。結果、高標高地域ほど早期から長期間に渡り、発病しやすいことが確認された。



【灰色かび病調査の様子】

農業普及課では、「環境モニタリング装置」※とグループLINEを活用し、リアルタイムに生産者へ注意喚起できるシステムの構築を目指していく。

※「環境モニタリング装置」とは、ほ場やハウス内外の環境（温湿度等）を各種センサで測定し、その場になくとも、パソコンやスマートフォン等で、数値を確認できる機器。

（園芸産地支援第一係）

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和5年11月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■夏秋トマト・農福連携 トマト生産者と福祉事業所による現地検討会を開催

農業分野の労力確保と、福祉分野における障がい者の就労先確保や社会参加等の拡大を目的に、岐阜県では「農福連携」が推進されている。恵那農林事務所管内でも、いくつかの農福連携活動が実践されているが、一層の拡大に向けて、農林事務所主催により、「トマト生産者と福祉事業所による現地検討会」を11月9日に開催した。

本検討会は9月14日と21日に、福祉事業所職員を対象としたトマト栽培管理作業の現地検討を行った際、手指に障がいを有する福祉事業所利用者が、葉かき作業時にハサミの使用で苦慮されたことを踏まえ、好適な道具を準備した上、再度開催したものである。11月9日の現地検討会では、前述した障がい者が、準備した道具を用いて、順調に作業を実施することができ、本人から「この道具を使用すれば、葉かき作業ができる」と評価されるなど、今後の取組意欲向上に繋がられた。

農福連携は、農業者と福祉事業所双方の条件一致が必須だが、容易な事ではない。一方、双方にニーズがあることも事実である。農業普及課ではコーディネート機能を発揮し、課題解決に取り組みながらマッチングを図り、本活動の新規導入と拡大に向け、鋭意取り組んでいく。



【葉かき作業を実演するトマト生産者】



【生産者、福祉事業所関係者、行政関係者による意見交換】

（園芸産地支援第一係）

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和5年12月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■クリ・東美濃栗振興協議会 クリ剪定のエキスパート育成に向け講習会を開催

中津川市、恵那市のクリ生産者で組織する東美濃栗振興協議会では、クリの剪定技術の水準に応じ4段階で認定を行う「栗剪定技術認定制度」を運用している。認定を受けようとする生産者等は、認定基準に応じ、筆記審査、園地審査、実技審査に合格する必要がある。

恵那農林事務所では、審査で全員合格できるようサポートしていくため、「栗剪定技術認定制度受験者講習会」を12月7日に中山間農業研究所中津川支所で開催した。

当日は、認定基準のヘルパー区分の受験者 2名、指導剪定士区分の受験者 1名が参加し、令和3～4年度にスマート農業実証プロジェクトで作成したVR剪定システムを活用し、仮想空間で剪定方法を理解し、支所内のほ場にてリアルな剪定を学んだ。

また、同プロジェクトで作成したeラーニングシステムで筆記審査の演習問題を解くなどの体験をしてもらい、受験者に同システムを貸し出し、自宅学習を行うこととなった。

今回の講習会で学んだ内容の理解を深め、令和6年1月末から実施される筆記審査等に合格するよう受験者は意気込みを新たにした。

恵那農林事務所では、「栗剪定技術認定制度」の運用を支援し、東美濃クリ産地の剪定技術の伝承を図っている。



【講習会開催状況】



【VR剪定学習】



【ほ場でのリアルな剪定学習】

(園芸産地支援第二係)

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和6年1月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■クリ クリ栽培の基本技術講習会を開催！

1月10日、14日、17日、21日の計4回にわたり、クリ栽培に関心がある方を対象とした「クリ栽培の基本技術講習会」を開催した。

講習会では、産地概要を説明し、ほ場の準備から定植方法の実演を行った。また、剪定技術が優れ、JA組合長から認定を受けた名人剪定士、指導剪定士が講師となり剪定の実演を行った後、受講者全員で剪定の実技を行った。全日程を通して受講者は71名あり、講習会に対する満足度は高い。

恵那管内はクリを原料とする和菓子屋をはじめとする実需者も多く、需要量に対して生産量は追いついていない。

農業普及課は、本講習会でクリ栽培のきっかけづくりを行い、東美濃栗振興協議会等が開催する更なるステップアップ研修に参画いただき、クリ栽培者の確保と技術習得支援を行い、東美濃クリ産地の拡大を図っていく。



【基本技術講習会の様子】

(園芸産地支援第二係)

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和6年2月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■指導農業士・青年農業士 地域農業の発展に向けた指導農業士・青年農業士との連携取り組み

恵那農林事務所では、高い栽培・経営能力を有し、意欲の高い農業者として県が認定している指導農業士や青年農業士と連携した活動を行っている。秋以降、恵那農業高校や阿木高校、農業大学の生徒・学生を対象とした出前講座の開催や、農業士自らの経営力向上を目的とした能力向上セミナーの開催を支援した。



【農業大学出前講座】

出前講座では、進路選択が近づく恵那農業高校・阿木高校の2年生、農業大学の1年生に対し、指導農業士・青年農業士が、自らの経営の概要や経営の考え方、農業の魅力と実態などを説明しながら、学生から受けた質問に対して回答する形で講義した。

講座後、生徒・学生からは、「将来のことを必要以上に不安視しなくても良いことがわかり安心した」などの声が聞かれた。また、受講アンケートの結果から、講座受講前に比べ、受講後の方が農業の魅力をより強く感じていることがわかった。

県下の青年農業士が一堂に会する能力向上セミナーでは、相互の連携強化を目的に各青年農業士の農業経営の現状や課題の情報交換、意見交換を行った。

品目が違う農業者の話聞き、育苗手法、雇用、6次産業化などについて交流、意見交換し互いを刺激し合い、更なる経営能力向上のための勉強ができる機会となった。



【能力向上セミナー】

今後も農業普及課では、指導農業士・青年農業士と連携しながら、青少年育成のための出前講座や農業士の経営能力向上のためセミナーの開催など、各種活動について支援していく。

(地域支援係)

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和6年3月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■新規就農者 東美濃地域就農者交流会を開催

東美濃地域では毎年数名が就農する。就農後間もない時期は、経営面、生活面等の課題を抱えていることが多く、これらの不安を解決、軽減するためには、新規就農者、先輩農家、関係機関が情報を共有することが重要である。このため、恵那農林事務所では、東美濃就農応援隊、指導農業士東濃ブロック連絡協議会等の協力により、新規就農者、農家のリーダー等が一堂に会し、就農者交流会を開催している。

本年は、昨年行われたワークショップで多く出された3つの課題について、さらに掘り下げて意見交換を行い、解決策について検討を行った。また、各グループでの検討結果について、生産者が自ら発表し、自ら取り組むべき事項と併せて、出席した就農応援隊長(恵那市長)、副隊長(中津川市長)を含めた地域関係機関への提言を行った。



【就農者交流会集合写真】

農業普及課では、新規就農者に寄り添いながら、農家リーダーの協力を得つつ、関係機関との連携により、早期の営農定着に向けて支援していく。

(園芸産地支援第一係)